

コロナから天溪の海外ハイキングは 2020 年1月ニュージーランドを最後に冬眠中でしたが、今夏は漸く仕事出来る喜びを持って欧州アルプスのハイキングを 3 件立て続けに行うことが出来ました。

手始めに弊社定番「花のアルプスハイキング 9 日間（スイス）」6 月 27 日～7 月 5 日から。昨夏の欧州アルプスは可也暑かった様ですが、今年も 6 月中旬から晴れの日が続きました。そんな中、ツアーの始まりに大陸を縦断する寒冷前線が通り抜け、大地を揺るがす雷鳴が恰も祝砲の様に轟きました。この時期の前線は大気の入替えから数日ぐずつきますが、なんと半日ほどで終了。それ以降は概ね晴れて約一カ月雨具無しのアルプスハイキングが続きました。



（マッターホルン 7 月 1 日）

○グリンデルワルド

3 年ぶりのグリンデルワルド、大きな変化はターミナル駅が新設され、そこからアイガーグレッチャー駅にロープウェーが掛かり、アイガー北壁を眺めながら空中移動（登山電車の選択有）。なんと大胆な発想をすることか！その他に気が付いたのは日本人旅行者の少ない事。円安のインパクトが大きいとはいえ元気がない日本が気になります。

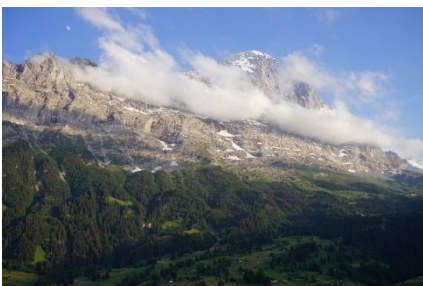
自然は何時通り不変でした。しいて言えばアルプスの三名花の一つ、アルペンローゼの当たり年。野山の至る所にピンクの群生を見かけました。



（バツハアルプゼー 6 月 28 日）



（アルペンローゼ）





(ユングフラウ)



(アイガー・メンヒ)



(小雨のアイガー北壁 6 月 30 日)

○ツェルマット

昨日の午後(グリンデルワルド)からの曇天が続き、今朝も重たい空模様。ところがホテルのオーナーが「標高 3500m 以上は晴れだよ」と言う言葉を信じてゴルナグラードへ。到着早々流れる雲の中に浮かぶ 4000m 以上の俊峰がムービーの如く見え隠れしていました。朝の曇天に出遅れたのか観光客はまばらでアルプスの大劇場を独り占め、本当に得した気分でした。自然は何が起こるかわかりませんね！



(リッフェルゼー 7 月 1 日)



(パノラマ: バイスホルン他)

○シャモニ

今年はスイス・フランがユーロより高い訳では有りませんが、スイスを1日減らし、その分フランスを1日増やしました。そのためシャモニ谷を隔て対岸からモンブランを眺める赤い針峰群足下のトレイルを歩き、続けて宿泊地モンタンベールのロッジへ。ロッジから見るドリューは錯覚なのか大岩峰が小さく見えますが、実際は標高差 1000mの垂直に近い壁。滝谷を「飛ぶ鳥も通わぬ」と言った先人がドリューを見たらなんと言ったでしょうね。最後は快晴のエギュードミディ展望台に上りコロナ明けツアーを閉じることが出来ました。



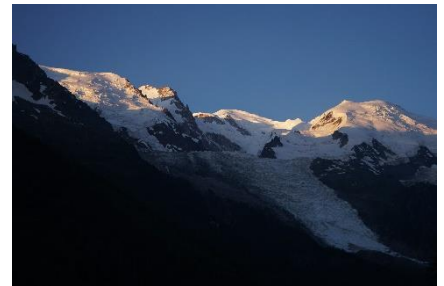
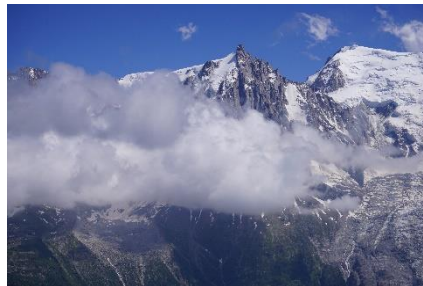
(ドリュエ大岩峰)



(アルペンローゼの群生)



(グランジョラス)



(快晴モンブラン 4810m 7月3日)

※さらに二つのツアーが続きます。

「ツールドモンブラン 10日間」 7月4日～7月13日

「花のアルプスハイキング 9日間 (イタリア)」 7月13日～7月21日